

【概要版】清水都心ウォーターフロント地区開発基本方針 1/2

1 開発基本方針の目的

なぜ今、策定するのか？

- 無堤区間であった津波防護ラインが決定し、江尻～日の出地区において防潮堤の整備に着手する
- 日の出ふ頭の物流機能の一部の興津地区への移転事業に着手した
- 世界的なクルーズ人気の高まりにより、清水港へのクルーズ船寄港回数が増加している
- 日の出地区では、海洋文化拠点構想の検討など市や民間による開発の機運が高まっている

開発基本方針策定の目的

本開発基本方針は、関係する官民の事業主体が清水都心ウォーターフロント地区の将来像（目指す姿）を共有・共感することで、地域ぐるみで国際海洋文化都市に相応しい“みなとまちづくり”に取り組む「価値共創」の指針として策定する。

2 清水都心ウォーターフロント地区の現状



地区の魅力（強み）

- 駿河湾越しに眺める富士山をはじめ、三保松原や日本平、久能山東照宮に囲まれた類稀なる「場の力」を有する地区。
- 「みなと」と「まち(中心市街地)」が近接し、交通の要衝であるとともに、歴史的、文化的価値の高い資産が豊富に存在。
- 「清水港・みなと色彩計画」を策定し、四半世紀にわたり、個性的で美しい景観づくりを地域協働で推進。

地区の課題（弱み）

- 港湾利用や景観の阻害などから防潮堤が未整備。
- 日の出ふ頭における物流と人流の混在。
- みなとまちとしての将来像が共有されていない。魅力ある地区をつくるといった目標が明確になっていない。

公共投資の機会を活かし、地域ぐるみで「課題（弱み）」を克服し、「魅力（強み）」を最大限に活かす

3 開発基本方針

清水都心WF地区の目指す姿（将来像）

- ◎清水港は、日本の象徴・富士山を美しく望み、三保半島や日本平など、類稀なる「場の力」を活かして、世界中の人々から憧れを集め、国際交流の拠点となっている。
- ◎清水都心WF地区の再開発を契機に、若者をはじめ地域の人々が日常から集まり、新たなビジネスチャンスが生まれ、若手起業家の活躍により、様々な事業が展開され、地域経済が活性化している。
- ◎清水都心WF地区は、巴川河口の川湊を原点に物流の港として栄えた“清水みなと”の歴史の痕跡を大切にしつつ、物流・産業に重点をおいた空間から、国内外の人々が行き交い、憩い楽しむ開かれた水辺空間へと姿を変え、「みなと」と「まち(中心市街地)」が融合した“みなとまち文化”を形成している。

キャッチコピー

「富士望む ころろ揺さぶる 世界の清水」

～国内外の多様な来訪者に感動を与える、都市のガーデンとしての“みなとまちづくり”～

【取組の視点】

① 「場の力」を活用し長きにわたって魅力を保つ

- ・類まれな美しい自然景観などの「場の力」と、清水湊の文化を醸し出す歴史的資源を融合し、清水港独自の新たな魅力を創出する。
- ・国際的なクルーズ拠点として、海外からの来訪者等を快適に迎え入れ、魅力ある観光地へ誘う。
- ・世代や時代の変化に応じた多様な利活用ができるよう、柔軟な対応を行う。等

② 「みなと」と「まち(中心市街地)」が融合し、地域を活性化させる場とする

- ・新たな施設整備では、境界を閉じることなく、まちや水辺に向かって開くことをコンセプトとする。
- ・「みなと」と「まち(中心市街地)」を繋ぐ軸として、魅力的な歩行者空間の整備や、海上・陸上交通の利便性を向上し、海を使った人の流れを活性化させる。
- ・既存ストックのリノベーション等を活用し、新たなビジネスチャンスを創出する。等

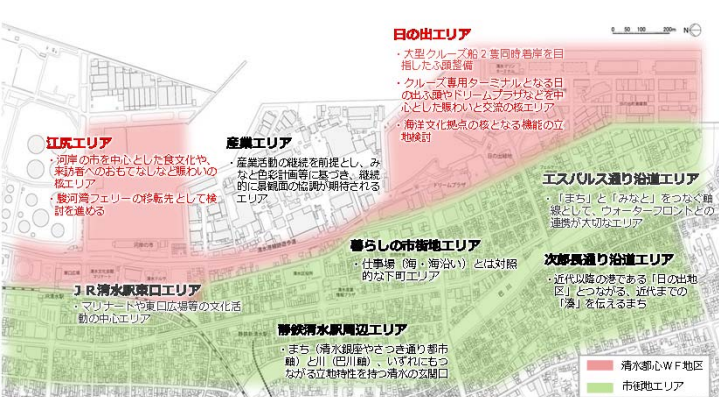
③ 誰もが心地良く、楽しく過ごせる「居場所」にする

- ・海辺における都市のガーデンとして、ゆっくりと時を過ごすことができる緑地空間などの「居場所」を設ける。
- ・魅力的な歩行者空間を創り、公共空間とそれに接する敷地を利活用し、滞留空間や人の流れを生み出す。
- ・来訪者のストレスを軽減させるため、公共サインの多言語化やWi-Fiの利用環境充実を図る。
- ・産業育成、海洋研究等をテーマとしたコンテンツの導入を目指し、海洋文化拠点構想の推進を図る。等

④ 防災とにぎわいが両立した新しく魅力ある景観を創る

- ・防潮堤の整備の機会を活かし、防潮機能を兼ねた快適な緑地空間の整備や、富士山の眺望を活かした新しく魅力ある景観を形成し、エリアの魅力を高める。
- ・防災情報を市民や来訪者に分かり易く周知し、確実に避難することができる津波避難誘導計画を策定するなどソフト対策を充実させる。

4 将来像の実現に向けた各エリアの整備方針 (短期:5年以内、短中期:10年以内、中期:5年~10年)

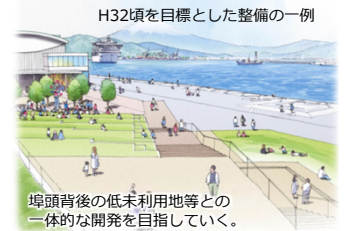


【エリア全体】 都市のガーデンとして快適な空間を創出するエリア

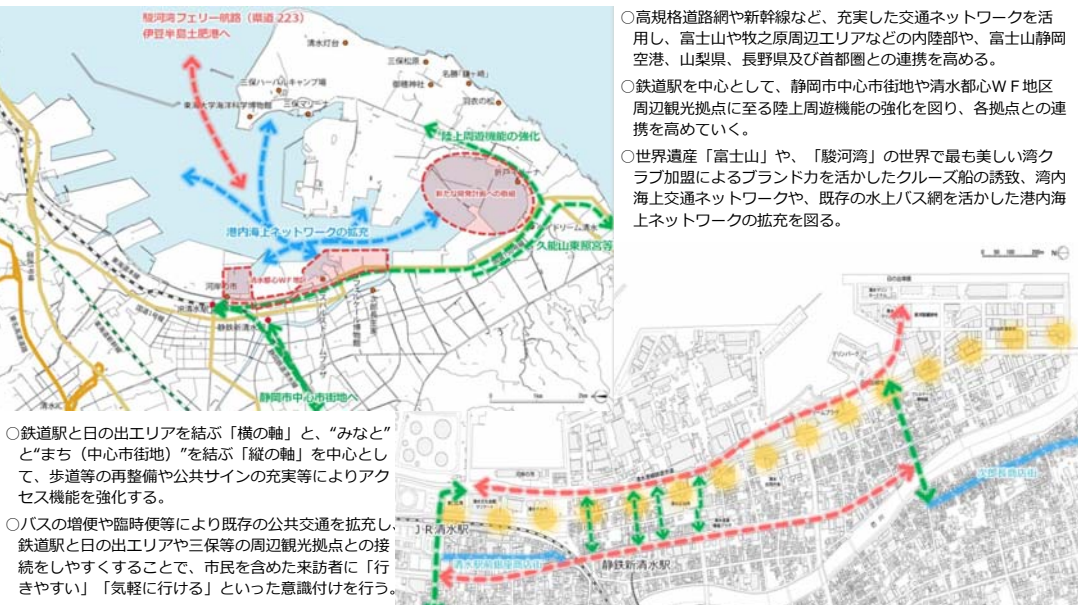
- ### 江尻エリア
- 防潮堤とあわせて水を眺めながら食事や休憩のできる空間を創出【中期】
 - 駿河湾フェリーの移転を検討し、鉄道駅や海上交通など陸海の結節点としての機能を強化【短中期】



- ### 日の出エリア
- 物流機能を興津地区に移転した上で、日の出4号、6号上屋をクルーズターミナルやにぎわい施設へ転換【短期】
 - 耐震性を確保できない日の出5号上屋を撤去し、跡地に防潮堤機能を兼ねた緑地空間を整備【短期】
 - 岸壁の増深 (-10m~-12m) を行い、大型クルーズ船2隻や大型クルーズ船と大型貨物船の同時着岸を可能とさせる【短中期】
 - 海洋文化拠点施設整備の最有力候補地として検討【短中期】

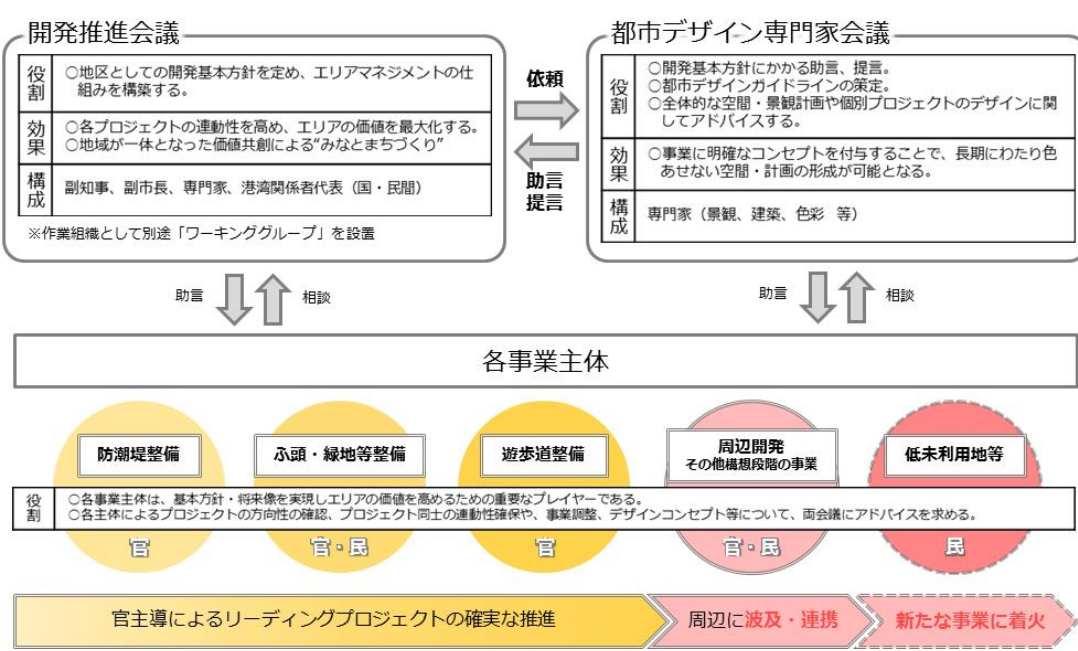


5 「みなと」と「まち (中心市街地)」をつなぐ交通戦略



- 高規格道路網や新幹線など、充実した交通ネットワークを活用し、富士山や牧之原周辺エリアなどの内陸部や、富士山静岡空港、山梨県、長野県及び首都圏との連携を高める。
- 鉄道駅を中心として、静岡市中心市街地や清水都心WF地区周辺観光拠点に至る陸上周遊機能の強化を図り、各拠点との連携を高める。
- 世界遺産「富士山」や、「駿河湾」の世界で最も美しい湾クラブ加盟によるブランド力を活かしたクルーズ船の誘致、湾内海上交通ネットワークや、既存の水上バス網を活かした港内海上ネットワークの拡充を図る。
- 鉄道駅と日の出エリアを結ぶ「横の軸」と、「みなと」と「まち (中心市街地)」を結ぶ「縦の軸」を中心として、歩道等の再整備や公共サインの充実等によりアクセス機能を強化する。
- バスの増便や臨時便等により既存の公共交通を拡充し、鉄道駅と日の出エリアや三保等の周辺観光拠点との接続をしやすくすることで、市民を含めた来訪者に「行きやすい」「気軽に行ける」といった意識付けを行う。

6 将来像の実現に向けたマネジメントのあり方



■ 関連プロジェクトとロードマップ (案)

平成32年 東京オリンピック・パラリンピック

場所	内容	国	県	市	民間	H28	短期 (~5年程度)	中期 (5年~10年程度)	長期 (10年以上)	
日の出エリア	クルーズ専用埠頭 (2バース、増深)	○	○				水深10m~12mの確保			
	4号、6号上屋をクルーズターミナル、商業施設等へ機能転換		○		○	設計・手続	撤去	創設化	内装工事等	
	日の出ふ頭緑地整備 (5号上屋跡地)		○			設計	撤去	緑地整備		
	物流機能移転		○		○	設計	整備			
	受入環境改善 (係船柱、防舷材)	○					整備			
江尻エリア	駿河湾フェリー移転検討・実施	○	○		○		調査検討	設計	埋立・増深・岸壁整備	
	歩道整備			○			整備		ターミナル整備	
	防潮堤機能を兼ねた交流空間整備		○	○	○		設計	防潮堤機能整備	天端整備	
	防波堤整備		○	○			調査・手続・設計	整備		
WF地区全体	自転車歩行者道整備			○			段階的な整備			
	海洋文化拠点構想の検討			○	○		東京五輪等を見据えた早期の実現を目指す			
	低未利用地の有効活用		○	○	○		跡地開発等			
	みなとへのアクセス向上		○	○	○		陸・水上アクセスの向上			
	陸上周遊機能の強化		○	○	○		輸送手段の検討 (路線バス増便、新交通システム等)			
	開発基本方針の策定	○	○	○	○	基本方針の策定				
	都市デザインガイドラインの策定		○	○			ガイドラインの策定	状況に応じた随時の見直し		
	エリアマネジメント	○	○	○	○		開発基本方針、都市デザインガイドラインに基づく再開発のマネジメント			

※凡例 ○：事業主体として取組を牽引 ○：事業主体を補助・協力
※本表に記載の事業は開発基本方針策定時点のものであり、新規事業について、随時追加していく。